

2022年
1月26日[水]—4月17日[日]

〔開館時間〕10時～17時（入館は16時30分まで） 第1金曜日 10時～19時（入館は18時30分まで）
〔休館日〕毎週月曜日（祝日の場合は翌平日）
〔観覧料〕一般 1200円／25歳以下 500円（10名以上の団体は各1000円引き）
高校生以下、障がい者手帳をお持ちの方 無料

企画展 1

館蔵 東洋陶磁名品選

松岡清次郎の志をたどる

〔再開記念展〕

松岡コレクションの

真髓

企画展 2

館蔵 日本画 花鳥風月

好きなものを集めて鑑賞して楽しんで
そして楽しませてもらった美術へのお礼として
その喜びを多くの人にわかち合いたい

企画展 3

古代ギリシア・ローマ大理石彫刻展

〔常設展示〕

古代オリエント美術
ガンダーラ・インド彫刻
ヨーロッパ近代彫刻

松岡美術館
Matsuoka Museum of Art



青花龍唐草文天球瓶
明代 永樂期 景德鎮窯

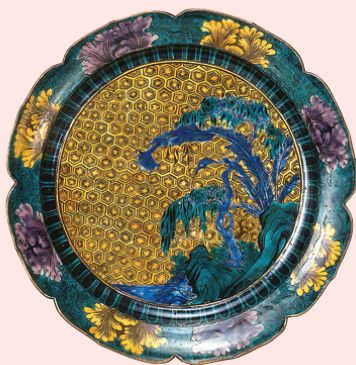
初代館長であり、美術館の創設者である松岡清次郎は若いころから書画骨董を愛し、生涯をかけて一大コレクションを築きました。自らの感性のおもむくまま、時には「日本にまだないものを」と選び抜かれた美術品は、1800件あまりを数えます。今回は約2年8か月ぶりの再開を記念して、松岡コレクション屈指の名品をご紹介します。古代ギリシア・ローマの彫像から昭和の絵画作品まで、時を超え、洋の東西を越えた清次郎の美の世界をお楽しみください。

企画展1 館蔵 東洋陶磁名品選 松岡清次郎の志をたどる

本展では、コレクションの3割を占める陶磁器作品の中から、選りすぐりの東洋陶磁を購入順に出品し、蒐集の歴史を振り返ります。清次郎のお気に入りであった古九谷を含む日本陶磁をはじめ、稀有な作例である首を下げた三彩馬など唐時代から清時代の中国陶磁を中心に、40数件をご紹介します。また、数奇な運命を経て清次郎の手中に収まり、美術館設立の決定打となった《青花龍唐草文天球瓶》《青花双鳳草虫図八角瓶》は、約7年ぶりの同時出品となります。



三彩馬 唐時代



色絵芭蕉柳図輪花鉢
江戸時代 17世紀



釉裏紅芭蕉文水注
明時代 洪武期 景德鎮窯



青花双鳳草虫図八角瓶
元時代 14世紀 景德鎮窯

企画展2 館蔵 日本画 花鳥風月

日本では、古くから花を愛で、鳥の声に耳をすまし、季節の風物を慈しむ心を大切にしてきました。本展では清次郎が特に気に入っていた横山大観《梅花》をはじめとして、花鳥風月に美を見出した日本画をご紹介します。室町水墨画から、江戸時代の酒井抱一、近現代の渡辺省亭、川合玉堂、鍋木清方、山口蓬春らによる名品で四季のうつろいをお楽しみ下さい。後期展示予定の重要文化財 伝 周文《竹林閑居図》は、2年に渡る修復を経て初めての出品です。



横山大観《梅花》 前期展示 1/26水～3/6日



伝 周文《竹林閑居図》
後期展示 3/8火～4/17日

企画展3 古代ギリシア・ローマ 大理石彫刻展

このほど新たに常設展示となる《アルテミス》にあわせて、展示室1では古代ギリシア・ローマの大理石彫刻8点を出品します。個性豊かな神々や彫像に刻された人物を通して、古代西洋の息吹をお届けできれば幸いです。



アルテミス
ローマ時代 1-2世紀頃



アフロディテ像頭部
ヘレニズム期 紀元前3世紀



【交通案内】

- 東京メトロ地下鉄南北線・都営地下鉄三田線「白金台駅」1番出口から徒歩7分
- JR「目黒駅」東口から徒歩15分
- 都営バス「目黒駅」東口バスターミナル2番のりば黒77:千駄ヶ谷駅前行 橋86:東京タワー行・赤羽橋駅前行・新橋駅前行「東大医科研病院西門」下車 徒歩1分

【ギャラリートーク】

当面の間、開催を見合わせます。開催が確定次第、当館ウェブサイトにてお知らせします。

※会期・開館情報は状況により変更になることがあります。最新情報はホームページ、ツイッターをご覧ください。

松岡美術館
Matsuoka Museum of Art

〒108-0071 東京都港区白金台5-12-6
TEL:03-5449-0251 FAX:03-5449-0252
HP:<https://www.matsuoka-museum.jp/>

